

会議名 第51回ニセコ町観光戦略会議

開催日 平成27年10月21日(水)	会議時間	開会 PM 6:30 閉会 PM 9:00
会議場所 ニセコ町役場 第二会議室	記録者	商工観光課観光戦略推進係 係長 齊藤 徹
出席者 委員：渡辺委員(座長)、今野委員、片岡委員、梅津委員、吉村委員、 大久保委員 事務局：前原商工観光課長、齊藤観光戦略推進係長、		
欠席者 委員：木下委員、櫻井委員、小関委員、チャール委員、服部委員、宮崎委員		

【主な内容】**◇戦略会議の提案事業、検討事項****《ニセコマラソンについて》**

・ニセコマラソンを観光につなげられないか、前回からの続き。別紙資料に基づき、今野委員から提案のあと、意見交換

[イベント部会(テント村など)について]

(委員) あれだけの人数をそのまま返してしまうのはやはりもったいない。レース後の滞在時間は30分から1時間程度と推測される。

(委員) 「ご飯食べられる場所はどこか？」という質問も会場で受けることがあり、テント村の場所が“下”でわかりづらいのではないか。

(事務局) テント村ではなく、町内の飲食店を聞いているのではないか。

(委員) 待っている家族の方々なども暇しないような取組が必要。

(委員) フードトラックなどをもっとたくさん集めて、フードフェスティバルのような呼び声にすることで、一般の人も楽しめるのでは。

(委員) 大きなテントなど雨対策も必要では。

(委員) マッサージや酸素カプセルコーナーなど、マラソンイベントのおもてなし。

[滞在(宿泊)誘引について]

(委員) 前日のウエルカムパーティーを実施し、セットの宿泊パックを観光協会では売ることとはできないか。

(委員) 海外のマラソン大会などでは、前日にパスタパーティー(炭水化物の提供)を実施し、マラソン向けの食事を提供している。

(委員) 以前は、ビュッフェにポップを立ててマラソン出場者向けに「持久力アップ飯」と表示していたこともあった。

(委員) シルバーウィークは繁忙期であるため、マラソンパックが成立しない(すでに満室状態)。天候不順な時期でもあり、開催日の変更はできないものか。

(委員) 大会前後にもジョギングなどを行っている人も多い。おすすめジョギングコースなどの紹介をしては。

[大会全般について]

(委員) 台湾のタレントを走らせて、中継し、台湾からの参加者を取り込むというJTBからタイアップの提案があった。しかし、国際的には“フル”マラソンでなければ魅力がない、町全体が盛り上げていない、運営側の疲労感など評価は厳しかった。大会運営のやり方そのものを変えなければ、それに応えうるような大会にするのは難しい。イベント自体はたくさんあった方がいいが、イベントのたびに集まる運営側はいつも同じ顔ばかり。従来型のスポンサーではなく、JTBなどが大会運営に加わって組織強化を図る方法もある。

(委員) 町としては参加選手を増やしたいのか。

(事務局) 現状の運営体制や人手を考えるとどちらともいえない。この場では、レースの運営というよりは観光戦略という提案の場なので、そこに落としどころがなければ、そののままという判断もありうる。競技志向が高まれば、観光面への広がり難しいし、観光イベント色が強まれば、競技志向の参加者が減る可能性もある。いっそのこと、競技に特化してイベント部会をやめるという選択肢もあるし、新たな価値観を取り入れてニセコならではのものにもなりうる。

(委員) 函館のハーフマラソンはハーフだけど参加者が伸びている。観光ルートである街中を走らすことに魅力があると思われる。

(事務局) 東京マラソンなど都市マラソンは、普段走ることができないような道路を走ることにも魅力がある。ほかの地方マラソンなどで成功事例などはあるか。

(委員) いま「トレイルラン」が流行ってきており、やるところを探している声が多い。ニセコエリアでもNACがやっているが、ゴルフ場跡地など面白いニセコらしいコース設定のヒントになるのでは。

(事務局) 今のハーフコースは数年間かけて検討に検討を重ね、国道横断や警備人員なども踏まえた最善のコース設定をしている。フルマラソン規格で国際大会化を目指すには、コース設定や日程など話は全く別になってくる。

(委員) ニセコマラソンとしては、“ハーフ”としてニセコの魅力を生かすような「フェスティバル」として取り組みをしていくしかない。

(委員) ニセコマラソン大会は後片付けがとても速くて感心する。ほかのイベントなどは2-3日は放置してあることが多く、迷惑になることもある。

(委員) 今回の戦略会議の議論は、戦略会議の意見として実行委員会側にも届けるべき。

(事務局) 議事録をまとめて、報告する。

《スポーツツーリズムについて》

・スポーツツーリズムについて、前回からの続き。別紙資料に基づき、今野委員から提案のあと、意見交換

(委員) ニセコはスキーなど恵まれた環境にありながら、今の子供たちはあまり行っていないのではないのか。

(委員) 親がやらなくなってきたのも原因にある。

(委員) プロの選手でもチャリティーなどで一緒に滑られる機会がある。一流に触れることで、やりたい人も増える。ニセコエリアにもそういう人が意外に多い。

(委員) どんな協議も子供のころから底辺を広げていく必要がある。

(委員) プロ選手のスポンサードも何かできないか。

(委員) 東京オリンピックでもローラースポーツが提案されており、既存の施設もある。それらを活用したパッケージ等を作ることができないか。町や観光協会の冠があるとなおいい。

(委員) 観光圏の財源の活用はできないか。ニセコクラシックも使用したと聞いている。

(事務局) 観光圏は4割。6割は自己負担が必要。

(委員) 今野委員において、経費(予算)などを含めた具体的なスキームを提示する。

《ニセコの星空の観光資源化について》

(委員) アイルランドでは星空が世界一きれいな国として、施設のライトを下向きにするとか消灯するなど“ダークナイト”という取り組みを実施している。ニセコでも天の川が見えるぐらいのきれいな星空がある。ホテルの街頭は消すことは可能ということで、看板などで取り組みを周知すれば、暗くてもお客様にも理解が得られると思う。また過去に、干草のうえで寝そべて星空を鑑賞するというイベントを行っていたが、干草に蛇が入っていることなどがあり、断念している。立った状態では首がつかれるので、ブルーシートを使用したこともあるが、寝そべて星を見られるようなデッキのようなものを作りたい。また、たとえば有島などで、カーテンを閉めて部屋の明かりを遮るよう意識した取り組みなどお願いすることはできるか。

(事務局) 民間の事業者で実績を徐々に広げていけば、理解が得られる。

(委員) 星野リゾートではグランピングといって野外で豪華なテントと豪華なソファで星空を楽しめるような施設の取り組みを実施している。

(委員) スキーゴンドラの夜運行利用などもスキー場に提案している。

◇その他

(委員) 倶知安町の観光協会とも連携して国内のファミリー層向けにアクティビティと英語学習を合わせたエデュケーショナルプログラムの体験事業の道筋を作っていきたい(魅力アップ事業の提案)。

◇次回日程(予定)

平成27年11月20日(金) 予定